

1 教育目標

「自ら考え、やりぬく子を育てる」 ひとりひとりを伸ばす教育を基盤にすえ、「未来への道を切り開く力」の育成

2 指導目標（めざす児童像）

・自ら学びよく考える子 ・思いやりのある すなおでやさしい子 ・心身ともに健康で たくましい子

3 自己評価（達成状況）と学校関係者評価 【A：肯定的な自己評価の合計が80%を超え、かつ「よくできた」が25%を超える。 C：肯定的な評価が50%未満、かつ「よくできた」が10%未満。】

Table with 5 columns: 本年度重点指導事項, 評価項目, 評価, 具体的な取り組み, 改善すべき課題, 具体的な改善の方策. Rows include categories like '確かな学力' (Solid Academic Ability), '豊かな心' (Rich Heart), '健やかな体' (Healthy Body), '特別支援教育の充実' (Enrichment of Special Support Education), '教職員の資質向上' (Improvement of Teacher Quality), '安心・安全な学校づくり' (Creating a Safe and Secure School), and '開かれた学校づくり' (Creating an Open School).

【学校関係者評価】

- ・不登校やいじめ問題について、学校運営協議会での協議事項として扱えるのではないかな。カウンセラーの要請など、協議会として可能な協力をしていきたい。
・保護者アンケートにおける早期発見・早期対応の肯定的意見が低い点については、子どもの声をもっと聞いてほしい表れではないか。その時間を確保するためにも、ゆとりのある業務となるよう改善する必要がある。
・保護者アンケート結果より、いじめの早期発見・対応や家庭との連携について否定的意見が多いことは重く受け止めたい。学校の取組を正しく保護者と共有し、「知らないことによる不安・心配」を払拭するためにも、授業参観や個別懇談に注力。
・業務内容について、昔からの恒例的なものは見直す必要がある。仕事内容を書き上げ、スクラップしていくものを洗い出すことも重要である。
・タブレットを使用した学習やプログラミング学習に注力すべき。迅速に対応するべき課題である。
・いじめ問題（荒れの問題）については喫緊の課題である。話し合える相手がいることが重要であり、絆づくりの取組が必要ではないか。また早期対応は必須事項である。
・教員という「働きがい」を効果的に実現していくためにも、先生方はもちろん地域住民のためにも連携を強め、学校運営協議会として改善に向けた具体的な方策を探りたい。